

NPO 法人 人間中心設計推進機構 Web サイトリニューアルにあたって提案のお願い

1. 概要

1.1 リニューアルの背景と目的

サイトの初期立ち上げ時から、事業部やコラムなどカテゴリーが増え、また蓄積したコンテンツの格納方法なども含め、再構築し分りやすくしたいとの要望が上がっている。

プラットフォームとして利用している MT のバージョンが古くサポート対象外となり、更新の必要性がある。また各種申し込みや資料のダウンロードなど、メンバーに向けたサービスをサイト上で可能にすることで、事務作業の低減も図りたい。

1.2 予算規模

リニューアル作業の全体（現状コンテンツ移行費を含む）：600 万円を上限とする

保守・運用は上記 600 万円に含めない。初期費用と分けて、月額にかかる費用を明記のこと

1.3 スケジュール

公募期間 : 9 月 14 日～9 月 30 日

提案書プレゼン : 10 月 5 日～10 月 9 日

開発会社の決定 : 10 月中旬

設計・開発開始 : 10 月下旬～

(10 月下旬に基本仕様策定のワークショップを HCD-Net およびベンダーで実施)

EC サイト公開日 : 翌年 3 月中旬

1.4 ターゲット層

人間中心設計推進機構会員

人間中心設計に興味を持つ非会員（※7～8 のターゲットセグメントを検討中）

1.5 リニューアルの範囲

(1) CMS について

現状の MT4.xx バージョンでありサポート期間も切れていることから、新規の CMS に移行する。運用および現コンテンツの移行を考慮して、適切な CMS を提案、導入する。

⇒現状カスタマイズされている機能に関しては、HCD-Net と協議し費用・期間の観点で判断する。

(2) サーバーについて

HCD-Net としてサーバー統合の動きがあり、ウェブサイトの格納サーバーも一本化の予定。

(3) コンテンツについて

現在の構成に対して、概要として、次のように変更することを予定している。

ただし、細部はプロジェクトのなかで詰めていく。

現状の構成：

(ヘッダユーティリティメニュー) | English |

ニュース | イベント・講演情報 | 人間中心設計とは | HCD ディレクトリ | 組織概要 | 認定制度 | 入会案内

変更する構成：

(ヘッダユーティリティメニュー) ニュース | English |

イベント・講演情報 | 人間中心設計とは | アワード | 認定制度 | 組織概要 | 入会案内

- ・「組織概要」については、文章や図版のリライトを希望する。
- ・「ニュース」は、現在の「ニュース」「イベント・講演情報」に加え、「認定ニュース」も統合して表示される。
- ・「HCD ディレクトリ」は、古く乏しいコンテンツが多いため廃止。「HCD ディレクトリ > 企業案内」のみ別のいずれかのカテゴリへ移設。
- ・「アワード」という事業を昨年より開始しており、ウェブサイトの上位層に掲載したい。
- ・「ビジネス支援」という新事業を検討しており、今後の流れにより、ウェブサイトの上位層に掲載したい。
- ・ターゲットユーザのセグメントごとの入口を設ける。ただし、コンテンツは今後作成するため、今回のリニューアルでは、IA 設計の段階での検討のみとする。

各コンテンツの、おおまかな総量は以下を想定：

ニュース 150 ページ

イベント・講演情報 350 ページ

人間中心設計とは 120 ページ

アワード 20 ページ

認定制度 80 ページ

組織概要 10 ページ

入会案内 3 ページ

English 60 ページ

その他：

HCD ディレクトリ > 企業案内 50 ページ

連絡先 1 ページ

プライバシーポリシー 1 ページ

お問い合わせ 1 ページ

HCD の重要カタカナ用語の表記について 1 ページ

フォーム 3~4 種類・「認定制度」はそのまま移行する。

(4) ソーシャルネットワークサービス連携について

ニュースやイベントが効果的に拡散するよう、施策・仕組みを設ける。

2. リニューアル作業提案の要件

2.1 提案依頼したい範囲

- ・基本仕様と開発体制に関する提案書作成
 - ※現状のシステム開発仕様書は存在せず、既存ベンダーからのオリエンはあり
 - 利用する CMS の概要と提案理由
 - SNS 対応の方針、考え方

- ・開発体制：開発メンバーに人間中心設計専門家をアサインし、開発プロセスを監修すること
※移行後の運用オペレーションに関して、導入教育をお願いしたい
※コンテンツについては、既存の情報をもとに企画・編集までお願いしたい
(支給原稿を掲載するだけでなく、サイト全体のバランスを鑑み調整いただきたい)
- ・SNSでの情報拡散施策

2.2 納品成果物

- (1) コンテンツ一式 (稼働する本番環境)
- (2) サイトの仕様書
- (3) 管理画面の操作マニュアル、ソフトウェアの契約書等の書類

2.3 システム開発の手法

オープンソースかASPサービス、パッケージソフトから最適なものを提案

2.4 システム機能の要件

最新ニュース、イベントレポートの更新は事務局スタッフでも簡単にできる (CMS 対応)

サーバーは外部委託 (GMO を予定)

PC、スマートフォンに対応

2.5 当機構の対応体制

当機構の体制として、WebWG のメンバー、各事業部および委員会から関係する担当者が参加予定

3. その他

3.1 検討事項

技術的要件：CMS 選定に関しては継続管理する専門担当者不在、オペレーションに関しても IT スキルが高くないメンバーが対応することも考慮

アクセシビリティ要件：JIS X 8341-3:2010 の等級 A に準拠すること。

本仕様書における「準拠」という表記は、情報通信アクセス協議会ウェブアクセシビリティ基盤委員会「ウェブコンテンツの JIS X 8341-3:2010 対応度表記ガイドライン 第1版 - 2010年8月20日」で定められた表記による。

(<http://waic.jp/docs/jis2010-compliance-guidelines/index.html>)

3.2 参考サイト

人間工学会、ヒューマンインタフェース学会など

4. 参考情報

会員の構成…メーカー、Web 関係、アカデミア…合計約 600 名

人間中心設計専門家…別紙、人間中心設計専門家資料参照

以上

人間中心設計
専門家

**統計にしてみました！
人間中心設計専門家・スペシャリストって
どんな人たち？**

HCD-Net認定 人間中心設計専門家・スペシャリストは、2015年春の合格者をもって507名（内訳：専門家402名、スペシャリスト105名）となりました。中規模の会社ほどの人数です。どのような業界で、どんな仕事をしているのでしょうか。2014年10月に、HCD-Netが実施調査をした結果を「人間中心設計専門家・スペシャリスト 現状調査報告書」として公開しています。興味深いデータを、いくつか、ご紹介させていただきます。

従業員規模：大企業にいる人が多い。

1位 5,000人以上 (33.5%)
2位 1,000~4,999人 (18.1%)
3位 300~999人 (14.5%)

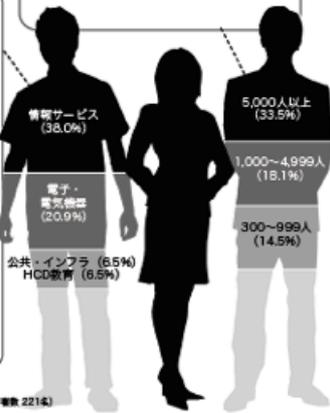
従業員数が「5,000人以上」の会社にいる方が33.5%で、そこから順に18.1%、14.5%と、だんだんと減っていきます。大手の会社では、複数人の専門家・スペシャリストを有しているケースも散見されます。

業種：情報サービス業の人が多い。

1位 情報サービス (38.0%)
2位 電子・電気機器 (20.9%)
3位 公共・インフラ (6.5%)
3位 HCD教育 (6.5%)

「情報サービス」が38%と、多くを占めました。その内訳には、システム開発、Web制作、スマホアプリなどが含まれます。インターネットや、スマートフォンの広がりとともに、ユーザーとのかわりを明らかにする役割が、より求められるようになったのかもしれない。

ちなみに「化学製品・薬品」と答えた方はどなたもいらっしゃいませんでした。薬品パッケージのユーザビリティは奥深い分野ですので、仲間が増えていくとよいですね。

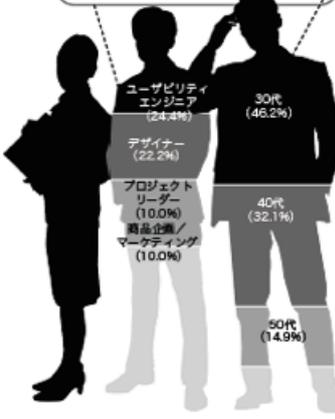


出典：人間中心設計専門家・スペシャリスト 現状調査報告書 (09)掲載数 2214
http://www.hcdnet.org/csriffid/news_csriffid/post_12.php

職種：ユーザビリティエンジニアとデザイナーで5割弱を占める。

1位 ユーザビリティエンジニア (24.4%)
2位 デザイナー (22.2%)
3位 プロジェクトリーダー (10.0%)
3位 商品企画/マーケティング (10.0%)

「ユーザビリティエンジニア」と「デザイナー」で46.6%と、5割弱を占めました。人間中心設計の源流のひとつはユーザビリティなので、その技術者が多いのも、うなづけます。なお、「ハードウェアエンジニア」と回答された方は1人でした。ニーズのありそうなところなので、ちょっと不思議な感じもします。なお、専門家に比べて、スペシャリストは、やや「デザイナー」の比率が高くなります。



年代：30代がトップ。次いで40代、50代だが、20代の若手専門家も。

1位 30代 (46.2%)
2位 40代 (32.1%)
3位 50代 (14.9%)

年代は「30代 (46.2%)」がトップでした。資格の条件にある「実務経験5年」を考えると、自然に感じます。次に「40代 (32.1%)」となります。少数ですが「20代 (3.6%)」の専門家もいました。ちなみに、スペシャリストは、全体的にさらに若い年代分布になります。

【編集後記】

人間中心設計専門家・スペシャリストの活動を、みなさまと共有し、交流するきっかけになればと、機材誌の数ページをいただくことになりました。みなさんの疑問や、興味関心に寄り添って、今後、記事をつくっていきたく思います。

当企画は、以下のメンバーで企画・編集を行っています。編集委員はみな、人間中心設計の現場にいるメンバーです。どうぞよろしくお願ひします。

岡山 孝雄
人間中心設計の仲間が、どんどん増えていくといいですね！

栗原 和博
人間中心設計専門家と言っても、様々なバックグラウンドや知識をお持ちの方がおり、このコーナーをきっかけとし、多くの方々の問題を解決視野を広げられると喜んでいます。

岡崎 真紀子 (後任編集委員)
もっとHCDの広がりに関わりたいと思い、このコーナーの企画委員に応募しました。良い情報を発信できるよう頑張ります。

小山 大子 (編集委員)
印刷物の新刊企画をしています。趣味は、フランクコと石原ジゴです。よろしくお願ひします。